

今月のテーマは「ラクウショウの膝根が招く観察の径」です。

「篠栗九大の森」は約17haの森に約90種の樹種が生育していますが、今回はインスタ映えで有名になったラクウショウを初めにコナラ、ウラジロノキ、ナツハゼコバノガマズミなどの落葉広葉樹22種と、カゴノキ、シロダモ、ナナミノキなどの常緑広葉樹9種の31種を重点に観察しました。

ラクウショウ(スギ科)は沼地や湿原を好んで生育するので「ヌマスギ」とも呼ばれますが、名前の語源は秋の紅葉の頃になると葉っぱが、ヒラヒラと羽のように舞い落ちるから「落羽松」と色々です。よく似たメタセコイアとの大きな違いは、湿地に適応するための膝根(呼吸根)があること、根元の板根(ナイロイド形)と、葉が互生ですから同定できます。予報は60%でしたが濡れることなく終わりました。(西岡記)

